

## 1 目的

市の障がい者福祉に関する課題のうち、行政で取り組むこと、協議会で取り組むことを整理し、協議会の方針を決める。

### 2-① 目標、達成度

障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題と、解決に向けた取組の方針が、自立支援協議会構成員内で共有されている。	取組内容の達成度	75%	次年度の方向	継続
--	----------	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
相談支援事業等（個別支援会議や事例検討会等）で確認できた地域課題の解決に向けて、どのように取組むか協議する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹的相談支援センター担当から地域課題の報告を受けた。</li> <li>・事例検討会及び相談支援専門員が対応している個別のケースから抽出した課題についても確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題が整理され、運営会議構成員で地域課題を共有できた。</li> <li>・運営会議構成員が、相談支援業務の中で地域課題を意識できるようになった。</li> <li>・地域課題を踏まえて、次年度の協議会運営について検討することができた。</li> </ul>	毎月の運営会議では、地域課題の共有にとどまり、具体的な取組の協議に至らなかった。地域課題の協議方法の検討が必要である。
必要に応じて、他の機関・会議体へ働きかける。	上半期地域課題報告書で報告された「肢体不自由児・者の居場所」について、地域活動支援センターを運営するみよし市社会福祉協議会に状況を確認した。	みよし市社会福祉協議会の看護師配置や応募状況について知ることができ、地域活動支援センターの課題を整理することができた。	「肢体不自由児・者の居場所」について、新規事業所が開所予定で当面の居場所は確保されるため、運営会議では必要に応じて検討を行うこととする。

### 2-② 目標、達成度

各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。	取組内容の達成度	70%	次年度の方向	継続
---------------------------	----------	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
必要に応じて、各専門部会等の運営についての協議・助言を行う。	各部会等の担当から報告を受け、年間計画表と照らし合わせながら進捗確認を行った。必要に応じて、運営についての協議・助言を行った。	ほとんどの各部会等が、年間計画表に沿って運営することができた。	限られた時間の中で活発な意見交換と運営ができる工夫が必要である。

### 2-③ 目標、達成度

全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	------	--------	----

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各専門部会等の報告に加え、全体会構成員全員で協議を行えるような議題について検討し、決定する。	全体会前に議題（協議内容）を話し合い、運営会議構成員間で共有した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会等の取組を共有でき、全体会を円滑に進めることができた。</li> <li>・協議すべき内容に優先順位をつけ、限られた時間で検討することができた。</li> </ul>	全体会が各部会等の報告に時間を取られ、地域課題や地域生活支援拠点の整備に関する意見交換の時間が少ないため、今後も協議方法の検討が必要である。

#### 4 次年度の目標（案）

①障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題の解決に向けた取組の方針が自立支援協議会構成員内で共有されている。

②各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。

③全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。

令和4(2022)年度みよし市障がい者自立支援協議会 人材育成検討チーム 事業報告書

(作成：令和5(2023)年3月2日、担当：しおみの丘 相談支援専門員)

1 目的

障がい福祉従事者がソーシャルワークを意識して、業務に取り組めるようになる。

2-① 目標、達成度

障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できるようになる。	達成度	70%	次年度の方向	継続
----------------------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
障がい福祉従事者を対象とした初任者研修(1~5年目)・中級研修(6~15年目)を企画・開催する。	泰山寮で10月に初任者研修、2月に中堅研修を対面式で開催した。	対面で開催したことで、直接コミュニケーションを取ることができ、事後アンケートの参加者の評価は、オンライン開催時よりも高かった。	時間の都合がつかない理由で不参加となるケースがあった。参加のしやすさを重視するため、テーマを設定し、2時間程度の研修を複数回開催する。
決まったテーマでオンライン懇親会を年3回開催し、市内事業所職員同士で気軽に意見交換ができる機会を提供する。	7月に「コミュニケーション」、10月に「世代間ギャップ」、3月に「コロナ後を見据えて」をテーマとしてオンライン懇親会を開催した。	事後アンケートから、他事業所の職員との新たな出会いや新たな価値観の気付きに繋がることが分かった。	

2-② 目標、達成度

障がい福祉従事者同士のネットワークを強化する。	達成度	20%	次年度の方向	継続
-------------------------	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題(展望)
オンライン事業所見学会を企画・開催する。	8月にオンライン事業所見学会を企画したが、新型コロナウイルスの影響で参加者がおらず、開催を見送った。	事業所見学会は開催できなかったが、オンラインではなく対面で見学したいという要望が各研修アンケートから分かった。	事業所見学会は、対面の希望者が多いため、対面で開催できるように検討する。
管理職向けの研修を企画・開催する。	年度当初に管理者向けにアンケートを行い、課題と感じている内容は「人材育成」「多職種連携」が多かった。1月に開催を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大もあり、今年度の開催は見送った。	管理者が課題と感じている内容を把握することができた。	管理者同士がみよしの課題を共有できる仕組みづくりのため、次年度はその1回目を開催する。

## 2-③ 目標、達成度

地域生活支援拠点を意識した具体的な取り組みを行っていく。	達成度	50%	次年度の方向	変更
------------------------------	-----	-----	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
地域生活支援拠点についての学習会やワークショップを地域生活支援拠点検討チームと協働して開催する。	「地域共生」をテーマに中堅研修を開催した。	研修に参加した市内障がい福祉事業所の従事者が共生社会の必要性と他機関と繋がっていくことの重要性を意識することができるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成検討チームと地域生活支援拠点検討チームが、それぞれで研修等を開催し、協働して行うことができていなかった。</li> <li>・地域生活支援拠点検討チームと役割分担を行い、専門的な人材育成に向けて取り組む。</li> <li>・専門的な人材育成として、地域課題報告書から強度行動障害の人材育成が急務と挙がっている。課題解決に向けて検討する。</li> </ul>

## 4 次年度の目標（案）

① 障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できるようになる。
② 障がい福祉従事者同士のネットワークを強化していく。
③ 障がい福祉従事者が強度行動障害について理解を深めていく。

### 【みよし市障がい者自立支援協議会が定義するソーシャルワークの定義】

ソーシャルワーク（社会福祉実践）の専門職は、人間がよりよく生きていけるようになることを目指します。社会に問題があれば社会を変え、人間関係に問題があればその問題を解決し、人々が本来持っている力がうまく引き出せるようにします。ソーシャルワークは、人の行動と社会のシステム（仕組みと働き）に関する理論をうまく使って、人々が社会や環境と互いに影響しあうところに働きかけます。人権と社会正義を大切にすることは、ソーシャルワークの一番の基本です。

※引用：国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義（意訳）長崎和則

令和 4（2022）年度みよし市障がい者自立支援協議会 暮らしの場検討チーム 事業報告書

（作成：令和 5（2023）年 3 月 2 日、担当：わらび 相談支援専門員）

1 目的

障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（緊急時対応、住まいの場の確保等）を構築する。

2-① 目標、達成度

緊急時の受け入れ体制を整備する。	達成度	80%	次年度の方向	継続
------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
緊急時対応フローに基づいた支援を実働させていくため、豊田みよしケアネットの患者登録に向けて、対象者の再確認を行い、豊田みよしケアネットに患者登録をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG を年 3 回開催し、緊急時対応について協議した。</li> <li>年 2 回（5 月・10 月）、相談支援専門員に緊急時対応を必要とする方の実態把握調査を行った。</li> <li>緊急時支援登録について相談支援専門員に周知を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内 2 つの事業所に、地域生活支援拠点等の「緊急時の受け入れ・対応」を整備することができた。</li> <li>「みよし市における緊急時の受け入れ・対応について（令和 4（2022）年度版）」リーフレットが完成した。</li> <li>実働に向けての登録を開始した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時対応を必要とする方に案内し、利用登録に繋げる。</li> <li>利用登録状況や利用実績を確認する。</li> <li>定期的に緊急時対応フローの評価を行い、成果や課題を確認し、修正を行う。</li> </ul>
緊急時の受け入れ先を増やしていく。受け入れ候補先である、さくらの丘（（社福）あゆみ会）、マムハウス（（一社）キッズラバルカ）、障がい者等サポートセンター（福祉課）等と受け入れに向けて話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG を年 3 回開催し、受け入れ先について協議した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG 参加機関に新たな受け入れ先へのヒアリングについて協力を依頼し、承諾を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな受け入れ候補先である各事業所に受け入れ体制や受け入れに当たった課題等のヒアリングを行う。</li> </ul>

2-② 目標、達成度

障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について協議する場ができるよう、関係機関で共通認識を持つ。	達成度	60%	次年度の方向	継続
--	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について市役所各課、社会福祉協議会、相談支援専門員と勉強会を開催し、知識を深め、課題を共有する。	<p>居住支援勉強会を以下の通り開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 月 28 日「どうして話し合う場があるの」</li> <li>10 月 7 日「話し合う場ってどんなところ」</li> <li>12 月 20 日「色々な形の居住支援協議会に聞いてみよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅セーフティネット制度や居住支援協議会等の知識を深めることができた。</li> <li>近隣市町の居住支援体制や仕組みを知ることができた。</li> <li>関係機関において、居住支援の取組の優先順位に違いがあることを確認できた。</li> <li>居住支援について話し合う場が必要であることを共有できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住支援 WG を設置し、居住支援の勉強会やワークショップ等を開催する。居住支援の知識をさらに深め、課題等を共有する。</li> </ul>

#### 4 次年度の目標（案）

① 緊急時の受け入れ体制を整備する。

② 障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（GHを含めた住まいの場の及び体験の場の確保等）について話合う場が設置できるように取り組んでいく。

【みよし市障がい者自立支援協議会が定義する「緊急時」・・・】

日中・夜間問わず、本人又は家族等では対応できないような緊急の事態。

## 1 目的

障がいの重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための5つの機能を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい児（者）の生活を地域全体で支える体制を構築する。

### 2-① 目標、達成度

みよし市版地域生活支援拠点事業・地域診断表」に基づき、居住支援のための5つの機能のレベルアップを図る。	達成度	80%	次年度の方向	継続
---	-----	-----	--------	----

### 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
「地域の体制づくり」のために地域共生ワークショップを実施	1 内容 (1) 講義「地域共生社会施策」 (2) 他市事例共有（地域を巻き込んだ取り組み） (3) 他市事例共有 （個別事例と地域づくりの連動） (4) プレゼン（みよし市でなにができるか） 2 参加者と分野 総申込者数31人 (1) 障がい福祉（相談員、訪問介護、施設職員） (2) 高齢福祉 （居宅介護支援、地域包括支援センター） (3) 児童福祉（子育て支援課、学校教育課） (4) 保健福祉（健康推進課） (5) NPO 法人（まちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生ワークショップを通して参加者同士の仲間意識が向上した。</li> <li>地域共生社会実現に向けた多分野との連携に関して共通のイメージが持てた。</li> <li>地域共生ワークショップを機会とし、次年度以降に多分野で構成されたチームが取り組みに対して動き出せる準備段階まで到達することができた。</li> </ul>	多機関が協働し、地域共生ワークショップで出された企画が実現するような取組を行う。

### 2-② 目標、達成度

地域診断表を活用し、みよし市の居住支援の課題を共有する。	達成度	80%	次年度の方向	継続
------------------------------	-----	-----	--------	----

### 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
全体会構成員が作成した地域診断表の結果を分析し、その結果に対して到達地点と今後の課題について共通認識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回全体会 地域生活支援拠点、みよし市の現状、今後の展開、地域診断表の活用について説明</li> <li>第2回全体会 構成員に地域診断表作成を依頼</li> <li>第3回全体会 構成員が作成した地域診断表の分析結果に基づき、内容を協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>域診断表を作成することで、誰もが地域生活支援拠点に関することが他人事ではないことを認識することができた。</li> <li>地域診断表を活用することで、構成員全体で地域生活支援拠点、現在の到達地点、今後の課題について共通認識を持つことができた。</li> </ul>	地域診断表に基づく現在の到達地点と今後の課題を運営会議、各部会等で共有し、今後の課題に対してどのように対応していくかを検討する。また、必要に応じて様式改訂を行う。

## 4 次年度の目標（案）

- |  |
|--|
| ① 多機関が協働し、地域共生ワークショップで出された企画が実現するような取組を行う。 |
| ② 地域診断表に基づく現状の共有と課題の分析を継続していく。             |

# 令和4(2022)年度みよし市障がい者自立支援協議会 児童部会 事業報告書

(作成：令和5(2023)年3月2日 担当：相談支援OKサポート相談支援専門員)

## 1 目的

障がい児の早期発見とライフステージに応じた地域での生活を支援するための協議及び事業を行うことにより、障がい児の福祉、保健、保育及び教育を実施する関係機関の職員及び家族の療育意識を高め、障がい児福祉の向上を図る。

## 2-① 目標、達成度

乳幼児健診以後の支援体制を見直す（早期対応段階の取組）。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
------------------------------	----------	-----	--------	----

## 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
より速い段階での早期発見、早期支援 健診フローの検証をプロジェクトチームで行うため、進捗状況の確認を行う。	第1回児童部会内で健康推進課に進捗状況の確認を行った。 健診フローを検証する事例検討会を実施した。	豊田市こども発達センター松浦氏に助言をいただきながら健康推進課で健診フローの振り返りを実施していることが分かった。	今後も進捗状況を確認する。
就労している家庭への発達支援 乳児保育を担当している保育士への調査を実施し、実態把握を行う。	アンケート調査の様式について、子育て支援課本松氏と打合せ、児童部会内で意見交換を実施した。	アンケート(案)を作成した。	アンケート調査を実施し、課題の洗い出しを行い、見えてきた課題について検討する必要がある。
2歳児の療育の充実 2歳児療育について児童発達支援運営委員会で具体的に定義するため、運営委員会に参加し、動向の確認を行う。	児童発達支援運営委員会に参加した。	③児童発達支援センターの設置に向け、検討中である。その中で2歳児療育の詳細に関して検討されていることが分かった。	今後も進捗状況を確認する。

## 2-② 目標、達成度

つながりシートの効果を確認し、様式等の改定につなげていく（就学移行段階の取組）。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	終了
--	----------	------	--------	----

## 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
保護者の意見を確認すること、シートの改善点の評価ができるよう、保護者向けアンケートを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4(2022)年12月に保護者向けアンケートを実施した。</li> <li>特別支援連携協議会で広く周知すべきとの意見があり、部会内で周知方法等を再検討し、学校教育課のホームページに掲載することとなった。また、外国語のシートがあるとよいとの声から、英語、中国語の翻訳を依頼した。</li> </ul>	<p>24名の保護者から回答を得ることができ、保護者の率直な意見を聞くことができた。</p> <p>【意見（抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園で工夫して対応してもらっていたことを小学校にうまく伝えたかった。</li> <li>子どもの困り事等を理解してほしかった。</li> <li>園の先生が細かく記入してくれ、学校の先生も子どもを励ましながらい指導してくれ、安心した学校生活を送ることができている。</li> <li>まわりへの理解も求めている。</li> <li>先生とシートについて話をしたことがなく、効果が分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの率直な意見を参考に、様式を変更する等より良い活用ができるような検討が必要。</li> <li>記入してよかったという意見も多かったが、マイナスの意見も多かった。小学校にシートの活用方法や保護者と園の思いを伝えることでマイナス面の改善に繋がるのではないかと考えられる。</li> <li>記入する園の保育士に学校での活用方法が伝わっていないため、園へのフィードバック方法について検討する必要がある。</li> </ul>



<p>保育士や教師との意見交換を実施し、記入者、受取者の意見を確認する（保育士と教師が一堂に会して意見交換できるような場を検討する）。</p>	<p>意見交換スケジュール  <b>【実施先】</b>          小学校 - 三好丘小、緑丘小、天王小、中部小          保育園 - みどり保、天王保          ※緑丘小とみどり保、天王小と天王保は合同で実施  <b>【実施者】</b>          相談支援地域アドバイザー、豊田市こども発達センター、学校教育課、豊田特別支援学校、児童部会事務局</p>	<p><b>【小学校意見（抜粋）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と話すきっかけになる。</li> <li>・保護者の目線でも対処法が書いてあり、事前に準備することができる。</li> <li>・1年生の担任になり、初めてこのシートが存在を知った。</li> <li>・保護者と園の先生に見立ての違いがあり、全てピタリ賞ではない。</li> </ul> <p><b>【園意見（抜粋）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが困っていること、頑張っていることを伝える機会になる。</li> <li>・保護者の捉え方を知る機会になる。</li> <li>・保護者が見ることを意識して記入するため、オブラートに包んだ書き方になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、学校教育課が主となりシートの改善等について検討するため、今年度で終了とする。児童部会では、アンケートの協力等依頼があれば適宜対応する。</li> </ul>
---	--	--	--

### 2-③ 目標、達成度

<p>保護者支援の課題を解決に向けた取組の方針が、部会構成員内で共有されている。</p>	<p>取組内容の達成度</p>	<p>70%</p>	<p>次年度の方向</p>	<p>継続</p>
--	-----------------	------------	---------------	-----------

### 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<p>『親子通園ルームふたば』『児童発達支援事業所よつば』の職員と意見交換を行い、現在行っている保護者支援の具体的な内容と、課題を探る。</p>	<p>『ふたば』『よつば』の職員と意見交換を行った。          『MAMAの会』についてヒアリングを行った。</p>	<p>各機関が実施している保護者支援の内容を確認することができた。          児童部会内で、各機関が保護者支援の必要性を感じ、取組を検討していることが分かった。</p>	<p>課題の共有のみで具体的な検討ができていないが、保護者の居場所となる場の設置を検討する。</p>
<p>課題の確認後、課題解決に向けた取組を検討する。</p>	<p>『ふい～る工房神谷氏』と意見交換を行った。</p>	<p>児童部会も協力し、『よつば』でペアレント・プログラム研修を実施予定。</p>	

### 4 次年度の目標（案）

<p>① 就労している家庭への発達支援について検討する。</p>
<p>② 保護者支援に関して、『語る場』設置に向けて、今ある資源の集約と検討を行う。</p>

# 令和4（2022）年度みよし市障がい者自立支援協議会 就労支援部会 事業報告書

（作成日：令和5（2023）年3月2日、担当：みよしはたらく協議会 就労支援事業担当）

## 1 目的

はたらく意思を持っている障がい者及び障がい者を雇用している企業または障がい者を雇用しようとしている企業を支援するために、必要なシステムや事業等を協議・検討し、具体的に実施していく。

## 2-① 目標、達成度

職場体験先を増やす。	達成度	60%	次年度の方向	継続
------------	-----	-----	--------	----

## 3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
企業に事務部門体験実習の実施状況をヒアリングし、出てきた課題をもとに企業へのアプローチ方法について検討する。	9月まで未実施。	なし	第2回全体会で下部のとおり、取組内容の文言を「ヒアリング」から「調査」に変更した。
企業に事務部門体験実習の実施状況を調査し、出てきた課題をもとに企業へのアプローチ方法について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験に関するアンケート調査を令和4（2022）年度第1回障がい者雇用支援セミナーの参加企業と令和4（2022）年度に市内中学校特別支援学級および三好特別支援学校からの職場体験受け入れ企業に行い、16社から回答を得られた。</li> <li>「職場体験を受け入れて良かったことは」の質問で「社会貢献ができた」と「障がいの理解ができた」でほぼ全体を占めた。</li> <li>「受け入れて困ったことは」の質問で、「どの程度の仕事ができるかわからなかった」が過半数を占め、「どのように接して良いかわからなかった」「仕事が増えた」が20%ほど続いた。</li> </ul>	<p>アンケート結果から以下の現状が分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務職の受け入れをしている企業もあったが比較的規模の大きな会社であった。</li> <li>企業にとって職場体験を受け入れることには、助成金等のメリットが少ないことが分かった。</li> <li>学生以外の受け入れと支援学校からの受け入れでは、従事する業務に多少差異を設ける企業もあった。</li> </ul>	企業にとっての職場体験受け入れに対して、メリットとなる事柄を検討していく。
WGを設置し、職場体験冊子の活用方法を検討して、改訂を行う。	第2回就労支援部会にて「職場体験冊子作製については事務局がまとめ役となり、部会員に協力を呼びかけ体制を整えていく」とし、合意を得た。	進捗が遅れていたが、WGを設置せず個別に依頼したことで作成が進んだ。	作成の進捗を早めることを優先し、WGを設置せずに進めることとした。取組内容を下段のとおり変更した。
職場体験冊子改訂の内容を検討するとともに活用方法を検討する。	みよし市内中学校4校の特別支援学級、三好特別支援学校、学校教育課の協力を得て冊子の内容の確認と職場体験の情報収集等を行い、学校の職場体験を追記した冊子へ改訂ができた。	市内の中学校特別支援学級、特別支援学校の職場体験の実態の理解が進み、職場体験先を増やすための話し合いをすることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の職場体験は実施時期が決まっている一方、障がい者就労では利用者のニーズとタイミングに合う体験先が必要である。それぞれのニーズに合う職場体験先が必要である。</li> <li>市内中学校特別支援学級、特別支援学校との連携を今後も継続し、より活用のしやすい職場体験の仕組みと冊子の活用を検討する。</li> </ul>

## 2-② 目標、達成度

企業が積極的に障がい者雇用を考えるようになる。	達成度	80%	次年度の方向	終了
-------------------------	-----	-----	--------	----

## 3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
ハローワーク、西三河北部障がい者就業・生活支援センターで各々行われているセミナーを知り、連携の在り方を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度セミナーの合同開催に向けて連携を依頼した。</li> <li>今年度から、セミナーの実施主体を就労支援事業とし、就労支援部会としては協力機関として関わった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在ハローワークで実施しているセミナーは「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」のみでありことが分かった。</li> <li>企画開催は前向きに検討を進めていくことで合意を得られた。</li> </ul>	<p>今後は、就労支援事業の実施に協力をする。</p>

## 2-③ 目標、達成度

就労定着について現状と課題を把握する	達成度	70%	次年度の方向	継続
--------------------	-----	-----	--------	----

## 3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
就労移行支援事業利用者について、就労定着の実態調査を行う。	調査票を作成し、市内就労移行支援事業所（grasshopper）からの就職者のうち退職した11名、関係企業8社に対して聞き取りを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>退職理由の仮説を立て調査項目を設定したが、作業上の理由ではなく、それ以外の個別の課題の比重が大きいことが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労移行支援を利用しないで就職した人、就労中の人の実態は不明である。</li> <li>課題を把握できていない現状を踏まえ、個別の課題を抽出をする。</li> </ul>

## 2-④ 目標、達成度

就労支援部会の在り方を検討・整理する	達成度	70%	次年度の方向	継続
--------------------	-----	-----	--------	----

## 3-④ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
就労支援事業の具体的な動きを構成員で確認し、部会と事業の役割を明確化していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用支援セミナーを就労支援事業で行った。</li> <li>部会で障がい者以外のはたらくことについて就労準備支援事業担当者と就労的活動支援事業担当者から、障がい者以外は雇用率制度がないため雇用のメリットが企業にないこと、外国人や障がいの診断はないが支援の必要な方への対応等、現在の状況や課題についての報告が挙がった。</li> </ul>	<p>障がい者以外の就労についても考えるべきという意見が挙がった。</p>	<p>来年度以降も今年度に引き続き就労支援事業でセミナーを開催していくこととし、部会での検討について意見交換を行うため、取組内容を下段のとおり変更した。</p>
就労支援部会にて意見交換を行い、方向性を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回の部会で就労準備支援事業担当者と就労的活動支援事業担当者から、「障がい・生活困窮・高齢等の分野が持つそれぞれの専門性をお互いに活用しながら、相互関連的・分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成員から障がい者の家族が困窮のケースやひきこもり、孤立化を防ぐことの重要性などの意見が出され、就労支援部会で検討する対象を困窮や高齢などに広げる必要がある</li> </ul>	<p>障がい者に限定せず、幅広い分野の課題を検討できる体制を検討する。</p>

	野横断的に関係機関・関係者のネットワーク の中で対応する必要性の話がされた。	ことを共有することができた。	
--	---	----------------	--

#### 4 次年度の目標（案）

① 障がい者に限定せず、幅広い分野の課題を検討できる体制を検討していく。
② 就労定着の個別の課題を抽出する。
③ 職場体験先を増やす。

令和4（2022）年度みよし市障がい者自立支援協議会 精神保健福祉部会 事業報告書

（作成日：令和5（2023）年3月2日、担当：はたらくサポートセンター 相談支援専門員）

1 目的

精神保健福祉の関係機関が連携し、精神障がい者が地域で安心して生活していけるよう、支援システムを構築する。

2-① 目標、達成度

当事者が仲間と出会いピアサポートし合える仕組みを作る。	取組内容の達成度	70%	次年度の方向	継続
-----------------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
当事者が気軽に参加でき、つながることの意義を感じられるイベントをWGで検討し、精神障がい者等サポート事業に提案する。（5月～10月）	イベント開催について検討する前に、まずはシエルブルーの利用者と共にピアサポートの仕組み作りをすることとなった。	シエルブルーの利用者にピアサポートについて伝え、興味を持った人が集まり月1回の「ピアサポート委員会」の開催が始まった。（11月から5回開催）。	ピアサポートに対する理解は容易ではなく、シエルブルーの利用者の現状としては、学ぶことより楽しいイベント等で利用者同士対等な関係が築かれようとしている。現在のシエルブルー利用者以外でもピアサポートに興味がある人材を探す。 ピアサポーターの養成については、次年度から検討を開始する。
ピアサポートの大切さに気付くことができる方法をWGで検討する。（11月～3月）	WGを3回開催し、みよし市でピアサポートし合える仕組みづくりを検討した。第3回WGでは、安城市の地域活動支援センター陽なたの管理者を招き、安城市のピアサポート活動について学んだ。	シエルブルー利用者のピアサポートグループを発足できる見込みが大きくなった。	

2-② 目標、達成度

市の精神保健福祉の課題が集約できる体制ができる。	取組内容の達成度	30%	次年度の方向	継続
--------------------------	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
精神障がい者等サポート事業の課題を整理し、解決方法を検討する。	部会で精神障がい者等サポート事業の報告を行った。	シエルブルー利用者の状況や寄せられる相談から、シエルブルー運営の課題や主に精神障がい者の社会参加における課題が挙げられた。	精神障がい者等サポート事業から抽出される課題に加え、他機関が把握している課題等も併せ、精神保健福祉の課題が集約できる方法が必要である。 また、成果で記載した課題の検討ができていない。

2-③ 目標、達成度

市の「ひきこもり支援」のフローと連携体制が確立する。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
----------------------------	----------	-----	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
「ひきこもり支援連絡会」の役割を明確にし、発足させる。	ひきこもり支援連絡会の要領を作成した。 ひきこもり支援連絡会を「不登校からのひきこもり」と「8050問題」の2つのテーマで開催した。（年3回）	不登校からのひきこもりの課題と8050問題等を関係者で話し合うことができた。 みよし市のひきこもり支援に携わる関係機関が集まり、検討する場ができた。	ひきこもり支援機関の全容が分かるフローを作成し、連携体制を検討する。 ひきこもりと8050問題に関する課題を整理する。

#### 4 次年度の目標（案）

① 当事者が仲間と出会いピアサポートし合える仕組みを作る。

② 市の精神保健福祉の課題が集約できる体制ができる。

③ 市の「ひきこもり支援」のフローと連携体制が確立する。

令和4（2022）年度 みよし市障がい者自立支援協議会 医療的ケアさぽーと部会 事業報告書

（作成日：令和5（2023）年3月2日、担当：キッズラバルカ 相談支援専門員）

1 目的

日常生活を営むために医療を要する状態にある児（者）（以下「医療的ケア児（者）」という。）及びその家族の住み慣れた地域での生活をサポートするために、多職種が集まり、必要なシステムや事業などを協議・検討し、具体的に実施する。

2-① 目標、達成度

医療的ケア児（者）を地域に知ってもらう。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
----------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
大規模災害を想定したシミュレーションを行い、自治区や各機関等で何ができるのか、どういった協力が必要なのか、又どういった準備をしておくべきなのか明確にし、災害がいつ起きても可能なように準備をする。	年3回WGを開催。10～11月を目途にシミュレーションを行う予定だったが、対象者が逝去したため中断した。WGで話し合い、シミュレーションを継続するため、医療デバイスを持つ方に依頼をした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケア児（者）の家族が常に防災意識を持っているわけではないが、いつ起こるか分からない不安がある。さらに前もって準備をしているわけではないことを知ることができた。</li> <li>WGメンバーは防災について意識を持ち、各機関でできること（備えや受け入れ体制等）を考えることができた。</li> </ul>	昨年度同様、家族が大規模災害等の準備が必要だと感じていても、イメージが湧かないため、シミュレーションを行う。行政区で行っている避難訓練に参加できるようにする。

2-② 目標、達成度

医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備える。	取組内容の達成度	10%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）の一時的な受入れについて、市内医療機関と年間の動きを共に計画し、協議の場を設ける。	新型コロナウイルス感染症拡大のため、市内医療機関と話し合いが行えていない。	情報収集を行い、市内医療機関で小児科医が勤務していることが分かった。また、部会主催研修会に訪問看護ステーションの参加があり、関心があることが分かった。	新型コロナウイルス感染症が5類になる方向のため、次年度は市内医療機関と受け入れに向けて話し合いを進める。
市内の医療的ケアが必要な人やその家族の現状等、共有する機会を設ける。	新型コロナウイルス感染症拡大のため、情報交換会を設けることはできなかったが、部会で共有を行った。	現状を知ってもらうことができた。	

2-③ 目標、達成度

医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行う。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
--	----------	------	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
市内在住の医療的ケア児（者）が抱える課題の整理と情報共有とを行い、部会に議題としてあげていく。	年4回WGを開催。市内在住の医療的ケア児の情報共有や課題を確認することができた。また、WGを中心に研修会等を開催することができた。	みよし市医療的ケア児等コーディネーターの役割や各ライフステージで担当が決まっており（今年度は学校教育課が取得）、WG	情報の共有だけでなく、地域課題を意識していくことが必要である。

	きた。	で市内医療的ケア児の情報共有をしているため、横の連携が取れている。	
「医療的ケアが必要な方の情報ガイド」を豊田市地域自立支援協議会と医療機関への周知啓発を行う。	令和3（2021）年度に修正した「医療的ケアが必要な方の情報ガイド」を豊田市地域自立支援協議会担当と共に、NICUのある医療機関（藤田医科大学病院・あいち小児保健医療総合センター・トヨタ記念病院・八事日赤病院）と愛知県医療的ケア児支援センターに周知・啓発した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3（2021）年度に修正したことで対象者（NICU/GCU 退院時）が絞られ、相談先が分かりやすくなったと評価をいただいた。</li> <li>・各医療機関の地域連携室に医療的ケア児等コーディネーターの周知を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年4月更新で各市のホームページに掲載する。</li> <li>・令和6（2024）年度以降、圏域で作成するか市単独で作成するか豊田市地域自立支援協議会と協議する。</li> </ul>

## 2-④ 目標、達成度

医療的ケア児（者）の対応可能な人材を増やし、育成するための研修会を開催する。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	修正
--	----------	------	--------	----

## 3-④ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）に対しての知識や技術を伝達できる研修を医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に福祉事業所だけでなく、保育・教育の場でも行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア費給付事業（年度途中から学校教育課所管の委託事業に変更）利用者対象に教員向け研修会を北中学校（気管切開）と三好中学校（ストマ）で開催した。</li> <li>・医療的ケア児者を対応したことがある市内事業所と市内訪問看護ステーション対象の研修会を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け研修会について、医療的ケア児と関わりのある方とない方との研修態度の差はあったが、学校から年度当初に毎年研修会を開催してほしいと依頼があり、医療的ケアに関心が高いことが分かった。</li> <li>・市内事業所、訪問看護ステーション対象の研修会は26人の参加があり、関心が高いことが分かった。また、医療的ケア児等コーディネーターや医療的ケア児支援センターについての周知ができた。</li> </ul>	医療的ケア児等コーディネーターを中心に、部会メンバーの協力をいただき、各ライフステージに研修担当を配置する。

## 4 次年度の目標（案）

① 医療的ケア児（者）を地域に知ってもらう。
② 医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備える。
③ 医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行う。
④ 医療的ケア児（者）の対応可能な事業所等（保育・教育含む）の連携強化のため、各ライフステージで研修担当を配置し、研修会等を企画・運営する。